

人の五感にやさしい 自然の恵み「木の魅力」

1. 木が本来持っている温度や湿度の調節機能で、夏は涼しく、冬は自然なあたたかさ。木は自然の断熱材です。
2. 木材の持つ調湿機能が、カビ・ダニの繁殖やウイルスの感染を予防してくれます。
3. 音や光を適度に散乱させて反射するので、目や耳にやさしい環境を作り出します。
4. 部分的なへこみやたわみによって衝撃を吸収。木の床は、身体への負担をやわらげます。
5. 人肌に近いぬくもりと癒しの香り成分がストレスをやわらげ、リラックス効果が生まれます。



めぐみこども園 「木育」へのあたたかな想い

当園では、暮らしの中に木を取り入れ、こどもの心を豊かにする「木育」をめざしています。新しい園舎では、0～1歳児向けと2～5歳児向けの木育ルームの内装デザインに『東京おもちゃ美術館』に監修に入ってくださいました。導入している「木のおもちゃ」も想像力をかきたて、脳の働きをよくするグッドトイばかりです。近年、「幼児教育」という言葉が浸透してきましたが、この言葉は「学校教育」とは違います。必ずしも幼児の頃から小学校レベルの勉強をさせればよいというわけではなく、まずこどもたちの情緒の安定がなければ、教育は決して成り立ちません。こどもたちの豊かな感性、遊び力を育むやわらかい空間。木の温もりたっぷりの当園の木育ルームが、最高の情緒の安定の場となり、木のおもちゃは最高の幼児教育に当たると私は考えています。「食育」が「体の栄養」であるならば、「木育」は「心の栄養」です。こどもたち、職員、そして保護者の皆様が、ともに楽しみながら、想いを共有する。当園の今後の木育への取り組みに、ますますのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

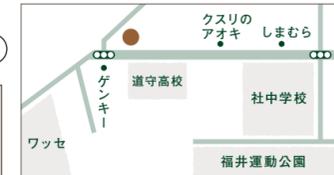
めぐみこども園 園長 中戸 華恵



〒918-8047 福井市久喜津町34-1
Tel.0776-36-5057
<http://www.megumihoiku.jp>

めぐみこども園の最新情報をチェック!

めぐみこども園 検索



木づかう心、
豊かな感性を
育てる

木育

MOKU-IKU

木育ってなあに？

この言葉は、2004年北海道で生まれました。
こどもの頃から木を身近に使っていくことで、
人と、森や木との関わりを主体的に考えられる
“豊かな心”を育てたいという想いが込められています。
そこでわたしたちは、「木育」を「木」が好きな人を“育”てる活動」と考えました。

森林大国・日本で暮らすわたしたち。
木育は単に木が好きになって、木を暮らしの中に取り入れればよいというものではありません。
その木材が、森林や環境をきちんと大切にしながら伐られているのか
といったところにまで想いを馳せ、
自分たちが暮らす地域の「木を使うこと＝環境を守ること」につながっていることを
しっかりと理解し、さまざまなものづくりを通して木の文化を伝えていくことが大切です。

赤ちゃんが一番心地よく感じるのは「ママの肌」。
二番目は「木のおもちゃ」だと言われています。
こどもは遊びの中で、目で見、耳で聞いて、さわって、味わって、においをかいで…
五感をいっぱい働かせます。

乳幼児期に木にたくさんふれることで、
本来持っている創造力や考える力、好奇心を刺激。
心の成長や思考にとってもいい効果があるそうです。
手にふれたときのぬくもりやホッとする香りは、木材ならではのもの。
家庭や地域、園での木のおもちゃ遊びや活動、さまざまな体験を通じて、
こどもたちの豊かな心を育てていきましょう。



東京おもちゃ美術館 × 株式会社 生態計画研究所

こどもが真ん中
「みんなのウェルビーイング」
を願って。

～ 共主体の保育 ～

こどもには、「自ら成長する力」「人とかかわる力」
「考える力」「豊かな感性と創造力」「挑戦する力」など、
わたしたちの想像よりはるかに、いろいろな力が備わっています。

自分で考えて、意思決定し、行動していく。

こどもたち主体の活動の場があることで、

その力は、ぐんぐん成長します。

こどもたちの内面・成長を支える、

質の高い保育を叶えるためには、

まずは、恵まれた保育者数や環境によってできる、

職員一人ひとりの心のゆとり、

日々のスキルアップが必要です。

こどもたち、保護者、地域の方、社会の中で

「こどもを真ん中」にみんなで、

こども一人ひとりの

安心できる居場所づくりを

大切にしています。

みんなが「わくわく」楽しめる、

「毎日めぐみこども園に行きたい」と

思える場所でありたい。



Stokinc. × ASOBIO × めぐみこども園



大きなウッドデッキテラス

ランドスケープデザイナーの熊谷玄氏による、なめらかな曲線カーブが美しい県産総ヒノキの「大きなウッドデッキテラス」。ウレタン製のまあるいフォルムが愛らしい「水玉遊具」、座ったり、ごっこ遊びしたりして楽しめる「お家型ベンチ」。デザイン性にも優れ、こどもたちの感性をくすぐる最高の遊び場に。



megurasu

かけっこ、ごっこ遊びも、どろんこや水遊びも、虫や植物しらべも、落ち葉あつめも……こどもがやってみたい「あそび」が、ぜんぶ叶い、みんなの気持ちがあつがる園庭です。



木育のとりくみ

1. こどもたちに安心・安全の使用材。

池田町の樹齢100年の「県産杉無垢材」をメインに、15種の県産材広葉樹を使用。材の塗装は木の素材や肌触りを直に感じてもらい、安全性を高めるためにウレタンをかけずに、身体にやさしい「米ぬか」から生まれた自然塗料のみで仕上げています。

2. 創造性や遊び力を育むおもちゃ

こどもたちの五感を刺激する、遊び方の限定されない木製玩具をはじめ、多種多彩な「グッドトイ」を300点以上導入しています。

3. 木育のプロ集団

当園の職員の9割が、「木育インストラクター養成講座」や「木育指導者セミナー」を受講し、木育を推進する資格を取得。また、「おもちゃコンサルタント」の資格を取得した保育教諭による専門的なおもちゃ遊びを展開しています。

4. 年間木育カリキュラム

木育指導者であり、環境教育にも特化した経験を持つ福島計一氏をメインに講師を迎え、木育の観点からの製作・森遊びを中心とした「年間木育カリキュラム」をたてて実施。木の文化や環境について学びながら木づかう心を養います。

5. 春夏秋冬の自然体験

5歳児は「SSTランド」や「足羽山」、「たけくらべ」で、4歳児は「SSTランド」や「足羽山」で、NPO団体（森のほうこがっこう）とともに、自然にふれ、四季の移り変わりをを感じる春夏秋冬の園外保育を行なっています。



東京おもちゃ美術館 × めぐみこども園

新生・めぐみこども園「木育プロジェクト」 新しい園舎で全国初のウッドスタート宣言！

園舎リニューアルでは、7年に渡って林野庁の国の事業である「木育」推進を受託する東京おもちゃ美術館監修のもと、デザイナーのアイデアを交え、県産無垢材を生かした「2～5歳児木育ルーム」をつくり、世界第3位の森林大国に相応しい園づくりを目指しました。多世代の人々に心地よさを与える木質率も考慮した、白を基調とした木の香漂う落ち着いた空間です。



「東京おもちゃ美術館」

赤ちゃんからお年寄りまで多世代の豊かな出会いと楽しみを有するミュージアム。国産の木材のみで作られた「おもちゃのもり」や、赤ちゃんが木の匂いや触り心地をふんだんに感じられる「赤ちゃん木育ひろば」など、木育のコンテンツが多数揃っています。

0～1歳児

赤ちゃんからはじめる木のある暮らし。池田町100年杉30mm材を基調として、「未満児向けのグッドトイ」や「樹齢500年杉の削り出しアート」、北欧や日本の布で森の四季を表現した「ファブリックアート」、「小型ヒノキタマゴボール」などを設けています。広い床で思いっきりハイハイしたり、おもちゃで遊んだりして、木の温もりや感触を存分に味わうことができます。

「ウッドデザイン賞」を受賞しました。



木育ルームをはじめ、県産材無垢材をメインに活用したあたたかい園舎が「ウッドデザイン賞」を受賞しました。つかまったり、抱きついたり、よじ登ったり、トンネルくぐりしたり……。0～1歳児木育ルームの人気者「樹齢500年杉の削り出しアート」も受賞しています。



「ウッドスタート」

日本グッド・トイ委員会が展開している「木育」の行動プランのことで、「木」を真ん中に置いた子育て・子育て環境を整備し、子どもをはじめとする全ての人が、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らすを送ることができるようにしていく取り組みです。

2～5歳児

池田町100年杉30mm床材をメインに、県産杉のルーバーで囲われ、秘密基地気分が味わえる中二階の「ごっこ遊びコーナー」、畳スペースでコマ回しなどが楽しめる「ちゃぶ台コーナー」、多樹県産材広葉樹の「感覚遊びコーナー」とゾーン分け。多種多様なグッドトイを中心に、こどもたちが木の香りを感知しながら活動的に遊べる、死角のない安心・安全な空間をつくりました。

当園の木育プロジェクトが「第10回キッズデザイン賞」を受賞しました。

2016年、当園の木育に対する取り組みが「第10回 キッズデザイン賞」(主催:キッズデザイン協議会/後援:経済産業省、消費者庁)を受賞しました。

